

# 学生会議

通  
信

No.27  
68.11.15

東京教育大學  
学生会議

## 学長宅斗争の限界を総括し

大衆団交に向け前進せよ！

教育大のすべての学友諸君よりわけ昨日の対学長大衆団交要求斗争を斗い抜いたすべての学友諸君学生会より昨日の斗争の終結と今後の方向性についての簡単な提起を行ないたい。我々は昨日、学長との團交をかちどるべく、早朝より、一五〇名の結集力をもつて、学長宅における斗争を展開した。我々の当然な、あまりにも当然の大衆団交実現の斗いに対し三輪学長のヒトに対応はいかなるものであったのか。我々の前に立に姿を現らわざるをえなくなりた彼は、にもかかわらず團交に対しこはかたくなに拒否し、あまつとも國家権力扶助隊を利用して我々を排除しようとしたりこのようひ暴挙に対して我々は怒りを新たにするとともに、対学瓦解公団交を自らの力でかちとつていく決意を強固に再確認しておかねばならぬ。

さらず我々が冷感する耳をもつて見ておかねばならぬ事実は、昨日の斗争のはらんでいた決定的な限界点である。何故、我々はやすやすと国家實力官憲の介入を許し、これに対する断乎とした対応をとりえたか？たのむ？これはまさに、この学長宅斗争の入り口の理由をこじつけた團交拒否、學校へ出でくることに対する拒否を、実際的結果的に容認せざるをえなかつたのか？これはまさに、この学長宅斗争の基本的方向性が曖昧だったためであり、原則的な確認点が確認されていなかつた故である。前日のゲラス代表者会等で斗争委事務局が提起した方向性はそれまでの方針「学長宅大學生に連れ立くるレバ交換して「学長の同同意」をヒツテ學校に連れ立くる」というものであつたりへしかも彼等は「力なしくすむを生ぜる方針にもヒヅク」解説。何んだ、そして行」にしました「学長宅前におりて大衆団交を行うレバ解説めこ方針として提起」というものであつた。しかし、学長が學校へ出でくるのを拒否するのは、我々の今日までの斗争からみて自明であり、「同意」をヒツテしかまい、とは余りにも明らかだ。「同意」せざる書類の解説等の問題ではないのだ。しかしに

対して強制されたか否かが斗争の前進にかかる力だ。学長宅前におりて大衆団交を行うレバどこの方針もまた官憲の介入を予想すれば十分ともたなければ実質的にも証明されてしまつた。このよう公事務局の中庸主義的な方針設定に対する我々は前日より「学長を我々の強制力、実力をもつて直ちに学校に進行し、大衆的な團交を行なう」ということを斗争の原則として押し出し、そのための藝術討議と組織化を主張していったのである。

我々は昨日の斗争が敗北に終らざるをえなかつたことをふりかるるつかから、このバリケード・ストリートを規定すべき戦略的な方針について、そして様々な個々の藝術を規定すべき戦略的な方針についてハッキリとした意思一致を再度かちとらなければならぬ。学長の「同意」をヒリつけるためバリケードがあるので有効だからする力でもなし。」学長が個人的に下ルジョア的同意を与えることがあるとしても、いかなる場合にも学長という公的支配の客観的役割に対しては強制力をもつてしか要求をのませることとはできたりのだ。それ故に、せ、我々は強制を可能にする力關係の上に強制力を具体的に本館占拠として物質化したのであり、これこそ、我々の実力斗争の藝術の展開なのだ。学長宅斗争もまたそのような実力斗争の觀点が置かれねばならなかつた。個々の階層的斗争のなかでの敵権力の彈圧は当然強度しなければならぬし、むしろ権力の彈圧を前提とした上で、彈壓の配慮にもとすき方針をたて、その限りで権力の彈圧は徹底的に粉碎しなければならぬ。だが一旦の彈圧は徹底的に粉碎しなければならぬ。だが一日の事務局の対応に見られた「彈圧を招來するから」というあらかじめ敗北と失敗を前提とした方針がわれわれをかつた日大で「非合法的」な実力斗争のまわりにあれほどの大衆が結集しているだけか。我々の斗争が正当であれば、そして我々の斗争が学

生大衆の斗うエネルギーを代表するのであれば、敵  
機力の弾圧は並に我々の武器に強化しうるものでし  
かないという原則点が原則点として明確に確立され  
なければならぬ。

我々は昨日の斗いの限界と欠陥を今後の教訓とし  
て物質化し、大衆団交実現の斗いを大衆的な暴力斗  
争として展開しなければならぬし、そのような方  
向設定を軸として学友左結合させ運動のダイナミズ  
ムを創り上げていかねばならぬ。

実質上の国交拒否回答左ハネのケストライキ斗争  
の質的強化をさらにつかちとろう！

さて一方、犯罪的にもバトカーによつて我々の眼  
前から逃亡した学長は、またもや場所を明らかにし  
て、評議会を開催し、我々の国文の要望書に対する  
質的「拒否」の回答を送ってきた。「話し合う  
用意がある」などと「うホーズを「ホーリヒして  
のみ示しながら、その実「国交ではなし」と「ラ拒  
し書きをつけ、しかも様々の不備設置を条件とする  
「カ国文拒否回答左我々は断乎ハネのけなければな  
らぬ！」

「のよう分偏勝的な「回答」に対する我々の答は  
たは一つである。バリケード・スト斗争の拡大強化  
と直接的な暴力行動の展開、これのみである。彼等  
が我々の前に屈伏するまで、バリケートと武装を強化  
し、学長評議会の支配力を徹底的に解体しつくし、  
硝波粉碎まで斗い抜かねばならぬ。

## 六、一 土地確保決定白紙撤回！

### 六、二 調査費計上白紙撤回！

### マスター・ラン検討委員会解体！

### 学長評議会大衆団交実現！

### 本館封鎖対象本部解体！

### 学長十四日回答拒否せよ！

### 硝波移転粉碎

### 大學の帝國主義的再編粉碎！

本日（15日）六時

学長モ斗争の終結と学長回  
答についてと今後の展望に

つりこ

M 上研部室にて